



Kobe Shoin Women's University Repository

KARASHI-DANE

荒井章三先生を憶えて（荒井章三先生退任記念号）

著者	後藤 博一
著者別名	Goto Hiroichi
雑誌名	キリスト教論藻
巻	38
ページ	1-2
発行年	2007-03-10
URL	http://doi.org/10.14946/00001613



荒井章三先生を憶えて

学 長 後 藤 博 一

私達の敬愛する荒井章三先生は、学院長としての任期をあと1年半残して、2006年9月末に退職されました。ドイツ最古のハイデルベルク大学「日本学科」に客員教授として招聘され、「日本における宗教と文化の関係」を講義するためです。

先生は、1958年京都大学文学部哲学科（美学美術史専攻）を卒業後、立教大学大学院文学研究科（組織神学専攻）に進まれ、博士課程終了後、松蔭短期大学にキリスト教科専任講師として迎えられました。それから退職される日までの43年間にわたって、研究と教育及び学校行政の面において学院の発展に貢献されました。

先生の研究領域は聖書学、特に旧約聖書の研究であり、数多くの研究論文や翻訳があります。戦後のエキュメニズムの流れに沿って、それまで異なる聖書を用いてきたカトリック教会とプロテスタント諸教会が共同して聖書の翻訳に取り組んだ時、先生も旧約聖書の翻訳委員として参加されました。先生は最初、美学を専攻された方ですから、美術関係にはもともと深い関心をお持ちで、大学のバナーを作るとき、また大学のシンボルマークを作るとき率先してデザインを考案されました。それらはミッションスクールに相応しい品格のあるデザインとして大学に定着しています。先生は在職中、図書館長、学生部長、キリスト教文化研究所所長などの要職につかれ、その間、学院評議員、常務理事として学院の運営にあたってこられました。そして2000年からは大学学長に就任され、大学改革を推進されました。その任期満了の2004年からは学院の院長に就任され、キリスト教的精神に基づく本学の教育の精神的支柱として指導的役割を果たしてこられました。

松蔭在職の40有余年の間に、先生は学者、教育者、管理者としての範を示されました。先生の穏やかな人柄、深い学識、教育への情熱は、学生・同僚教職員の尊敬するところであります。先生のこのようなご功績を称えとともに、先生のご貢献に対する感謝の念をこめて、謹んで本号を「荒井章三先生記念号」として荒井章三先生に捧げます。

(2007年1月20日)